

洛西竹の径

竹林公園・竹の径を歩く 古墳と遺跡めぐり

柱から櫻原、大枝、向日市にかけての竹林のエリアは、古代に、この地域で先進的な技術を持った渡来系氏族の遺跡や大きな古墳が残されています。洛西ニュータウン建設で様変わりしていますが、ひとたび竹の徑に入るとかぐや姫の世界が広がり、土の中の古代にタイムスリップして行きます。雑踏を離れ、今もまだひなびた雰囲気の残る道を歩き、この地域で活躍した祖先に思いを馳せてはいかがでしょう。（一部向日市の遺跡も含みます）



しりぞき かたまほらはいじあと
史跡 櫻原廢寺跡
八角形の瓦積基壇(写真中央)を持つ三重塔(推定)や、中門とそれに続く回廊、東西の築地遺構のほか、北側からは建物が確認された白鳳時代創建の寺院跡です。造営にはこの地域に勢力を持つ、秦氏の関与が推定されています。



らくさいちくりんこうえん
洛西竹林公園
竹専門の展示施設。世界各国の約110種の竹や笹が植えられている生態園を始め、竹の資料館内にはエジソンが竹のフィラメントで作った白熱電灯等、様々な竹製品が展示されています。（入園無料・水曜日休園）



おおえじんじゃ
大枝神社
かつてこの地を拠点としていた大枝氏の祭祀神といわれ、神紋は二葉葵で江戸時代に崇えた様子がうかがえます。
おえやまこふんぐん
大枝山古墳群
古墳時代後期の群集墳。横穴式石室を持つ直径10~23mの円墳が20数基点在しています。25号墳からは大変珍しい鐵刀等も出土し、古墳群は、京都市の史跡に指定されています。
<4号墳石室の巨大な天井石>
※裏面発掘調査地図を参照ください



しりぞき てんのうのもりこふん
史跡 天皇の杜古墳
古墳時代前期に築造された、全長83mの市内最大級の前方後円墳です。この地が古代より交通の要衝であり、平野部を見渡せることから、桂川右岸の首長墓の一つとされています。



ふくにしいせきこうえん
福西公園
福西古墳群と呼ばれる群集墳で、当時この付近に住んでいた人々を埋葬したものと考えられています。7号墳の墳丘部はかなり削られていますが、10号墳の墳丘と横穴式石室は良好に残存しており、出土した須恵器は古墳時代後期の特徴を示しています。（京都市指定史跡）



ふくにしきごふん
福西4号墳
福西古墳群の中で最大の円墳。中央に横穴式石室があり、須恵器・鉄製の刀・釘・馬具等の副葬品が出土しました。CO-OPの駐車場内に墳丘が保存されています。



てらどおおつかこふん
寺戸大塚古墳
竹の徑にある、全長98mの規模を持つ古墳時代前期の前方後円墳。前方部と後円部それぞれに竪穴式石室があり、和製の銅鏡や三角縁神獣鏡等が出土しました。（墳丘の西側が京都市、東側が向日市です）



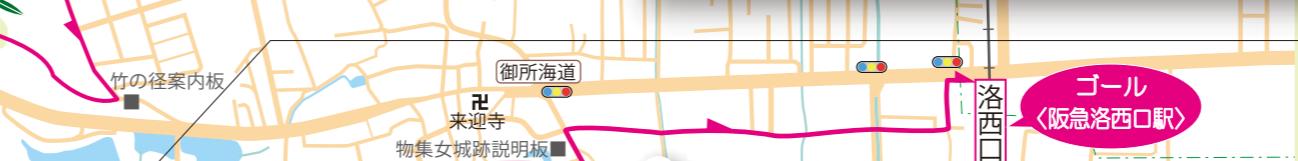
このあたりには、旧街道の面影が今も残っています。



たまむらけじゅうたく
玉村家住宅
参勤交代で往来した諸大名の宿舎。市内唯一の本陣遺構として残されています。（京都市指定建造物）



ごくら郷倉
江戸時代、農村ごとに設置された公的な穀倉。年貯米を保管していました。



ばつたり床机
軒下の空間に設けられた台。昼間は広げて商品を並べ、夜間は折りたたみます。夕涼み等の休憩や、祭の時には棧敷席に利用されます。



なかかいどういせき
中海道遺跡
弥生時代後期を中心とした集落跡の遺跡であり、1万年以上も前の旧石器時代の遺物もみつかっています。1995年に行われた発掘調査から、当時にはまったくみられなかった斬新なスタイルの最古の祭殿跡がみつかり、卑弥呼の時代とされる3世紀中期の祭殿を中心に、豪族の居館があったことがわかりました。（物集女公民館前に説明板があります）



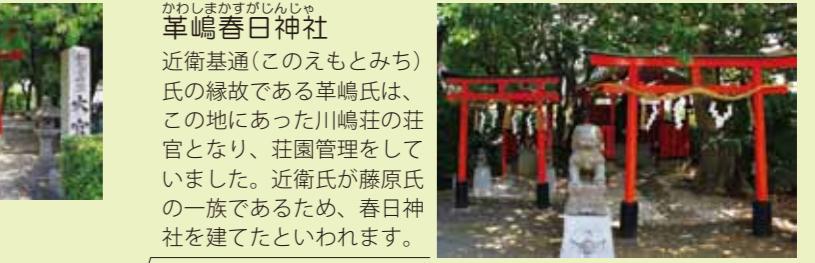
淳和天皇火葬塚
物集女車塚古墳
物集女車塚古墳（京都府指定史跡）
全長43~48m、高さ7~9mの規模を持つ、古墳時代後期の前方後円墳。石棺内から特異な金銅製冠や、三輪玉等多数の副葬品がみつかりました。



からむてんのうこうとうたかだけりょう
桓武天皇皇后高畠陵
長岡京を築いた、桓武天皇の皇后藤原乙牟瀬（ふじわらのおとむろ）の御陵。直徑約65mの円墳です。



ちいなりこふん
元稻荷古墳
向日神社境内にある、古墳時代前期の前方後方墳。全長94mある墳丘全体が、公園として整備保存されています。



かわしまかすがじんじゃ
革嶋春日神社
近衛基通（このえもとみち）の縁故である革嶋氏は、この地にあった川嶋荘の莊官となり、莊園管理をしていました。近衛氏が藤原氏の一族であるため、春日神社を建てたといわれます。



たけのみち たけのがき
竹の径「竹穂垣」
地域ゆかりの名前が付けられた6種類のオリジナルの竹垣と、美しい竹林が連なる1.8kmの自然豊かな“竹の径”。



じゅんなんてんのうかそづか
淳和天皇火葬塚
桓武天皇の第3皇子、淳和天皇の火葬塚。大きな陵墓を造ることなく、遺言によりこの地で火葬され西山に散骨されました。



もずめくるまほづかこふん
物集女車塚古墳（京都府指定史跡）
全長43~48m、高さ7~9mの規模を持つ、古墳時代後期の前方後円墳。石棺内から特異な金銅製冠や、三輪玉等多数の副葬品がみつかりました。



からむてんのうこうとうたかだけりょう
桓武天皇皇后高畠陵
長岡京を築いた、桓武天皇の皇后藤原乙牟瀬（ふじわらのおとむろ）の御陵。直徑約65mの円墳です。



ちいなりこふん
元稻荷古墳
向日神社境内にある、古墳時代前期の前方後方墳。全長94mある墳丘全体が、公園として整備保存されています。



～文化財と遺跡を歩く～ 京都歴史散策マップ



発行 京都市・鈴木市埋蔵文化財研究所



京都市考古資料館

大正3年に本野精吾の設計で建てられた旧西陣織物館を内部改修し、京都市内の発掘調査・研究の業績を発表・展示するため昭和54年11月に設立されました。特別展と常設展で構成され、約1000点の遺物が展示されています。遺物展示のほかにも、映像やパソコンで旧石器時代から近世にかけての京都の歴史を学ぶことができます。建物は、昭和59年に京都市有形文化財に登録されています。

〒602-8435

京都市上京区今出川通大宮東入元伊佐町 265-1

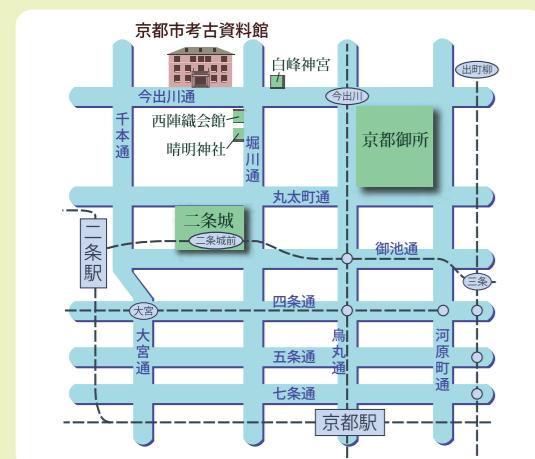
TEL. 075-432-3245 FAX. 075-431-3307

<http://www.kyoto-arc.or.jp/museum/>

入館無料・月曜休館(月曜が祝日の場合は翌日)

開館時間 9:00~17:00(入館は16:30まで)

JR京都駅より地下鉄烏丸線 今出川駅下車徒歩15分
市バス 201・203・59系統 今出川大宮下車すぐ



洛西地区の発掘調査

桂から桜原、洛西ニュータウン周辺は竹林で有名ですが、古代には秦氏の活躍したところでもあります。また、京都市内でも前方後円墳を含め古墳の多いところです。遺跡では古くは縄文時代から、古墳を始め、古代寺院跡、中世の城跡や館跡等も点在します。京都市内の中でも早くから開けていた地域といえるでしょう。

発掘調査では、縄文時代晩期の集落がみつかった上里遺跡、前方後円墳の天皇の杜古墳や寺戸大塚古墳、古代寺院の一つである桜原廃寺、中世の革嶋館跡等の調査が行われ、それぞれに成果を収めています。また、大規模な造成工事に伴い大枝山古墳群の発掘調査もなされています。



① 大枝山古墳群

大枝山古墳群は、西山の丘陵部に位置し、25基の円墳からなる古墳時代後期の群集墳です。この古墳群の存在は明治時代から知られ、分布調査や石室の実測が行われており、京都市内でも著名な名所でした。大規模造成のため、8基の円墳を発掘調査しました。古墳には周濠が巡る墳丘径約13mのものと約20mの大小に大別できます。主体部は横穴式石室で両袖と片袖の両方があります。調査対象外の14基の古墳は公園として整備されています。



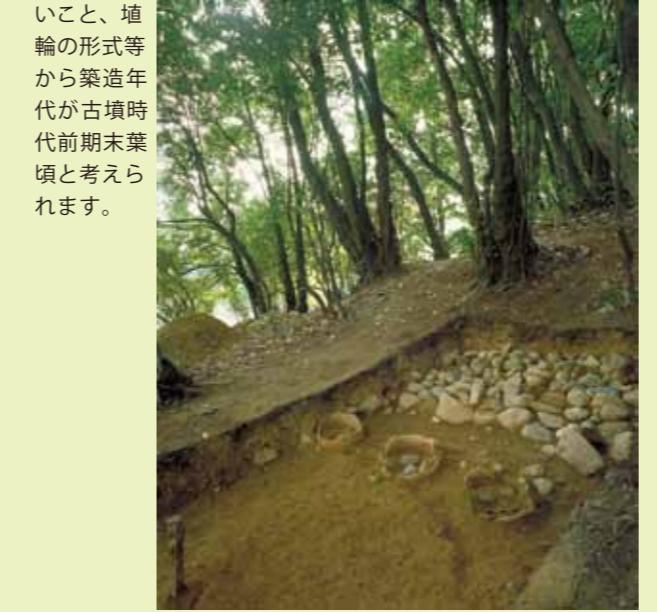
② 革嶋館跡

阪急桂駅の西南には川島という地名があります。川島の中央を東西に走る道路がかつての山陰街道でした。この川島は中世から続く川島(革嶋)集落の名残で、集落の南側に戦国時代から江戸時代まで、革嶋館があったことが「革嶋家文書」の絵図から知られています。その絵図には、土塁と堀で囲まれた館が描かれています。発掘調査では、この館に関する堀跡を2箇所で確認しています。堀の幅は約5m、深さ約2mの大規模なものでした。みつけた堀は絵図等から、館の東南部と西南部のものとわかりました。



③ 史跡 天皇の杜古墳

西京区御陵塚ノ越町に所在する天皇の杜古墳は、大正11年に墳丘が国の史跡に指定され、その後周辺の田圃も買い上げられて公有地化がなされました。京都市を代表する前方後円墳で、京都市が保存活用するために史跡公園として整備しました。その際の発掘調査で、葺石や埴輪列、テラスの様子がわかれました。また、古墳の外側の周濠がないことも判明しました。これらから、2段築成の前方後円墳で全長が約83m、後円部径50.5m、前方部幅33.5mであること、平地で周濠がないこと、埴輪の形式等から築造年代が古墳時代前期末葉頃と考えられます。



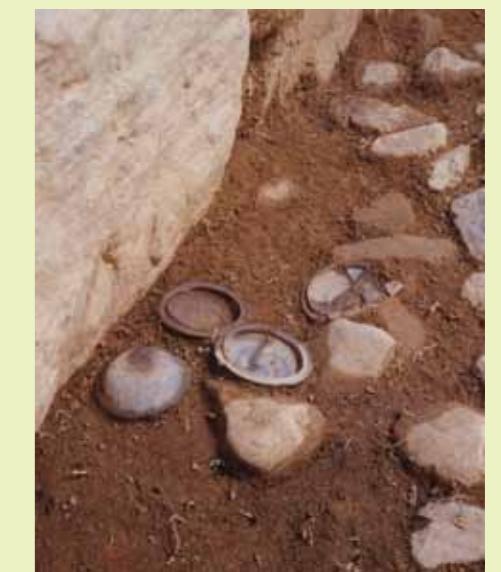
④ 史跡 桜原廃寺跡

山陰街道と物集女街道が交わる一帯が桜原です。この交差点から少し南に下がったところに桜原廃寺跡跡公園があります。ここは、昭和42年に造成工事が行われる前に京都府と奈良国立文化財研究所により発掘調査がなされ、八角形の瓦積基壇と基壇中央の地下約2mから一辺2mほどの花崗岩の心礎がみつかり、この基壇が塔のものであることがわかりました。同時に東西の廊や中門と思われる遺構も発見されています。出土する瓦や土器から、この寺が白鳳時代のものとされています。また、京都市岡崎の法勝寺跡で平安時代後期の八角九重塔基壇がみつかっていますが、白鳳期のものではほかに類例のない貴重なものです。



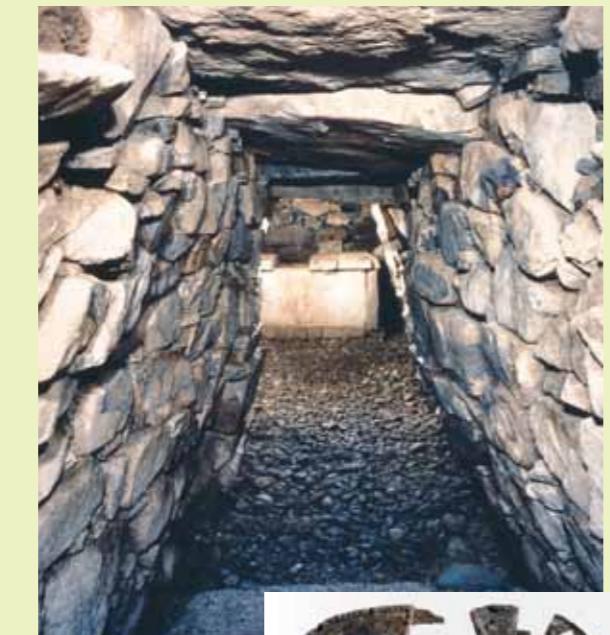
⑤ 福西古墳群

福西古墳群は向日丘陵の北西部に位置し、小畠川に西面する標高60~70mの低位段丘上に立地します。現在までに32基の円墳が確認されています。発掘調査は昭和27年に京都府教育委員会が調査を行ったのを初めてとして、洛西ニュータウン建設時に14基の調査が実施されています。その後、宅地造成等で既知のものや新たに発見されたものが調査されています。出土土器や石室等から、この古墳群は6世紀後半から7世紀前半に構築されたとみられていましたが、小石室等の発見で7世紀中頃まで築造されていたことがわかつきました。



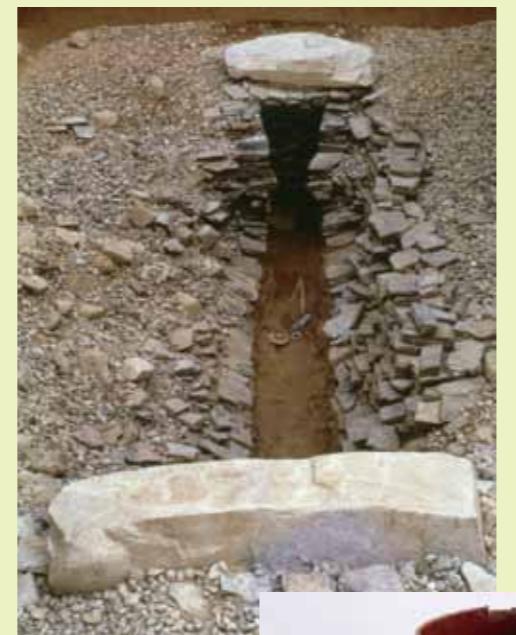
⑥ 物集女車塚古墳

6世紀中葉の全長約45mの前方後円墳。横穴式の石室で、天井が高いのが特徴です。石室の構築石材の中には兵庫県高砂市に産する竜山石製の長持形石棺の部材が転用されていました。竜山石製の長持形石棺は古墳時代中期の畿内における有力者の石棺に用いられたものであることから、物集女地域の前代の有力者の墓を壊して、車塚が造られた可能性があります。副葬品は、金銅製の冠や馬具・捩環頭大刀・鉢・玉類等がみつかっています。(向日市)



⑦ 寺戸大塚古墳

向日丘陵に点在する古墳時代前期古墳の一つ。4世紀前葉に造られた墳丘長約95mの前方後円墳です。埋葬施設は後円部と前方部に竪穴式石槨が一つずつ設けられています。後円部の石槨は付近で産するチャートの板石で造られ、船載三角縁唐草文帯四神四獸鏡を始め太刀や斧・鎌等がみつかっています。前方部の石槨は大阪府柏原市産出の安山岩の板石で造られ、仿製三角縁獸文帯三神三獸鏡を始め、直刀・短刀や菅玉・碧玉製紡錘車等がみつかっています。



写真提供:

(上・下) 向日市教育委員会



⑧ 石見城跡

西京区大原野石見町内の竹藪の中に、土塁跡と堀跡が残されています。堀は折れ曲がった形状がよく残っており、両脇の土塁もよくわかれています。石見城の詳細はまったくわかれていません。戦国時代、地元の小野氏が居城していたのではないかと考えられています。発掘調査はなされていませんが、そのすぐ西側では調査されています。その調査では、中世前半～戦国時代までの3時期の遺構がみつかっています。2期目の14世紀後半から15世紀初頭の遺構群では建物が多くみつかり、その方位が現存する石見城の堀や土塁の方位とよく似ています。



⑨ 上里遺跡

上里遺跡は向日丘陵の西側を南流して桂川に注ぐ小畠川の右岸に位置します。縄文時代から中世にかけての複合遺跡で長岡京の北西部にも属します。発掘調査では、長岡京期の大型の建物群や道路遺構を多数検出し、特に一条大路南側溝は総延長で約720mを検出し、このあたりまで長岡京がしっかりと造営されたことが明らかとなりました。次に弥生時代前期の竪穴住居・土坑・土器棺墓・焼土痕等を発見しました。焼土痕は屋外炉とも考えられます。上里遺跡で最も注目された縄文時代晩期は、流路状遺構・竪穴住居・土器棺墓・土坑等多数の遺構と、多量の土器・石器がみつかっています。また、流路状遺構からは炭化した豆類やどんぐり、栗、クルミ等と共に米もみつかっています。しかし、炭素年代測定では米以外のものは約3000年前の数値が出ましたが、米に関しては約2500年前という数値となりました。とはいって、京都市内では一番古い米粒の発見であることは間違いません。



洛西地区的
発掘調査地分布図